

■ 道路見える化計画

国や地方の財政がひっ迫する中、国と県では道路整備を行ううえで客観性を踏まえた事業の取捨選択と効率の良いサービス提供に向けた利用者の意見反映の必要性から、渋滞損失時間や死傷事故率等の生活実感に近いデータに基づき、「道路見える化計画」を策定しました。この計画は、関東地方整備局管内全ての都県で作成、公表しています。

本県では、この「道路見える化計画」をより実践的なマネジメントとする取り組みとして「イライラ（移動性阻害）箇所・ハラハラ（安全性要対策）箇所見える化プラン」をまとめ、平成 19 年度から、「道路見える化事業」として重点的に取り組んでいます。

●イライラ箇所（国）153号 飯田市 飯田北改良



●ハラハラ箇所（一）小倉梓橋(停)線 安曇野市 黒沢川橋



■ ラウンドアバウトの導入に向けた取組について ～新しい交差点制御方式～

交差点制御方式の一つであるラウンドアバウトは、安全性、効率性に有効であり、大規模災害等に強い交通環境の実現、信号機等交通安全施設のLCCの低減及び環境にやさしい省エネ対策の観点から、昨今導入について検討されています。

ラウンドアバウトとは、環道交通流に優先権があり、かつ環道交通流は信号や一時停止などにより中断されない円形の平面交差点の制御方式のことです。

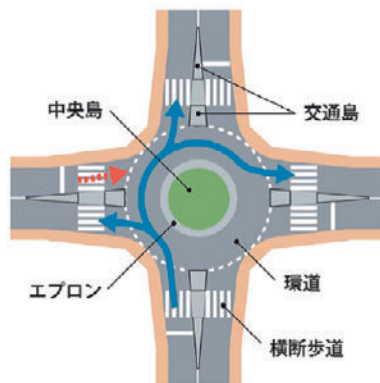
この主な特徴としては

- ・車両速度を抑制することができ事故発生時の損失の軽減が可能
- ・交錯点が少ないなど安全度が高い
- ・信号待ちがなく、時間損失が減少
- ・停電時でも自律的に機能し、低コスト

などが一般に挙げられています。

県内では、全国で初めて信号機を撤去し設置した飯田市東和町交差点をはじめ、観光地の6枝交差点を改良した軽井沢町六本辻交差点のほか、飯田市吾妻町交差点、須坂市野辺町交差点、沼目交差点、安曇野市本村円交差点および軽井沢町借宿交差点においても運用されています。

また、平成 26 年 9 月には道路交通法の一部改正が施行され、環状交差点における車両等の交通方法が定められました。



ラウンドアバウト概念図

市町村名	交差点名	供用年月
飯田市	あづまちょう 吾妻町	H23.10
飯田市	とうわちょう 東和町	H25.3
軽井沢町	ろっぽんつじ 六本辻	H26.5
須坂市	のべまち 野辺町	H26.9
安曇野市	ほんむらまどか 本村 円	H27.4
須坂市	ぬまめ 沼目	H28.6
軽井沢町	かりやど 借宿	H30.12
飯田市	てんりみきょう 天龍峡 IC	R1.11
高森町	したいちだ 下市田	R3.3



軽井沢町 借宿